

SDGs衣生活について考えよう

みなさん、「食品ロス」というのは知っていると思いますが、「衣服ロス」という言葉は聞いたことがありますか？ 衣服ロスとは、まだ着られるのに捨てられている服のことをいいます。

実は、ファッション産業が与える大きな環境負荷は世界的な問題になっていて、海洋汚染や地球温暖化など、環境に取り返しのつかないダメージを与えています。

ファストファッションと呼ばれる最新の流行のもので、世界的に販売されている服が増えてきました。日本の衣服の自給率は約2%で、ほとんど海外から輸入しています。

環境省Webサイト「サステナブルファッション」の「手放したあとの服の行方」によると、リサイクルやリユースされる服が34%、ゴミに出される服が66%となっていて、1日当たりに焼却・埋め立てされる衣服の量は1300トンにもなるそうです。

どうして捨てられる服が多いのかというと、大量生産、大量消費、大量廃棄と

いう社会システムがこの問題の原因になっているといわれています。また、服の原材料となる綿花は児童労働によって生産されていたり、農薬や肥料の大量使用による健康被害の問題を抱えています。

服の縫製についても、過酷な環境で生産されています。2013年4月24日、バングラデシュのサバル工場が崩壊する事故があり、労働環境や労働条件の改善がすすめられています。また、最近では企業も服の下取りやリサイクルを進め、回収した服を再生したり新たな素材にリサイクルをしています。

今後は、私たちが今持っている服を長く大切に着たり、先のことを考えて購入したり、服を資源として再活用するなど、衣服ロスを減らすために取り組めることを実践していきましょう。



愛媛県金融広報アドバイザー
武田 咲枝